

第46回 市長対談

文化芸術の拠点 久居アルスプラザ

津市の文化芸術振興の拠点として期待される施設、久居アルスプラザの運営は、民間事業者の持つさまざまなノウハウを活用しようと、津市の文化施設としては初めて民間事業者が施設の管理運営を行う指定管理者制度が導入されました。今回の市長対談では、久居アルスプラザの館長・脇岡宗一さんに、今後の運営方針や地域とのつながりについてお話を伺いました。

市長 久居アルスプラザは、老朽化が著しい旧久居市民会館に代わるホールを旧久居市役所跡地に新築したものです。

平成24年の劇場法(劇場、音楽堂等の活性化に関する法律)施行後、津市で初めて建設され、法律の高い理念を展開する拠点の一つとなりうる高度な機能を備えた文化施設です。

脇岡 劇場法とは「ホールを活性化して、地域へ貢献する」ということだと理解しています。そして、指定管理者制度もこれを実現するための重要なツールであるべきだと思います。当社(ケイミックスパブリックビジネス)も多くの施設を指定管理者制度に基づいて運営していますが、制度ができる前と比較してみると、人の配置や効率的な運営、企画や情報発信など多くの点で成果が現れています。

また、ホールへ地域住民を呼び込

むことはもちろん、ホールから地域住民に向けて積極的にアプローチしていく姿勢も大切だと考えています。

市長 久居アルスプラザが質の高い文化芸術の鑑賞や文化活動のお披露目の場であることはもちろん、気軽に立ち寄れる日常の居場所としてもご利用いただきたいと思います。

脇岡 久居アルスプラザは、さまざまな利用の仕方を可能にする多くの設備を併せ持ち、市民の皆さんが気楽に集まるスペースとして、地域のにぎわいを創出するというコンセプトがよく表現されている施設です。これらをどのように使っていくか、わくわくすると同時に責任を感じているところです。「ときの風ホール」はオーケストラピットや前舞台などの多様な舞台機構や、最新の舞

台機器があるので、これらを活用した企画を進めていきます。ギャラリーでの広いスペースを生かした絵画等の展示や、ロビーでのフリーマーケットなど楽しみが広がります。

市長 久居地域は、「ひさい音楽祭」「四季の彩り祭り」「ひさい版仮装大笑」などがあり、文化芸術活動が非常に盛んな地域といえます。

地域の伝統ある文化芸術活動をときの風ホールで開催したり、ロビーで催しをしたりすることが、久居アルスプラザを生き生きとした場所にしていくと思います。地域との関わりについてどのようにお考えですか。

脇岡 地域の文化を受け継いでいる催しを大切にしながら、音楽、美術、舞踊、カルチャーなど地域の

方々が積極的に参加してくださる企画を進めていきたいと思っています。

市長 非日常の体験だけでなく、日常的な利用もできるような施設にしていくためには地域との信頼関係を構築していくことが大切です。

脇岡 平日に皆さんに来ていただくための企画を考えなくてはいけないと思っています。

平日はシニア層や主婦層が中心になるとしますので、その方々が楽しめるコンテンツを企画していき、地域とのつながりを密にしていきたいですね。

また、地域の演奏家やアーティストにアイデアを出してもらい、皆さんに来ていただける施設にしていきたいと思います。加えてSNS、ホームページなどを通じて、皆さんに情報発信していきます。

市長 次に自主事業についてですが、市民の皆さんに文化芸術の鑑賞の機会を提供するという意味では、良い事業をできる限り安価で鑑賞していただくことが大事です。指定管理者に質の高い事業を企画していただけるよう、津市も職員の育成に尽力しており、舞台芸術や文化施設の管理運営に携わってきた専門性のある者を職務経験者として採用するなど充実を図ってきました。今後、久



居アルスプラザで展開していく自主事業を、ケイミックスパブリックビジネスの皆さんと職員と一緒に考えていきたいと思います。

脇岡 津市の自主事業をしっかり担うためにも私の演奏家、指揮者、プロデューサーとしてのスキルや経験を最大限事業に注いでいく所存です。地域アーティストによる公演はもとより「市民のための市民が主役」となるような合唱団やミュージカル、市民公募企画などの創造型事業を多彩に開催していく予定です。

また、文化活動を支える人材として「ときの風サポーター」の設立や、未来の芸術家や制作スタッフの人材育成に努めるなど、当社の専門性を生かしながら、津市の文化芸術をさらに盛り上げ、地域の活性化にも力を注いでまいります。

市長 これからの事業展開を楽しみ

にしています。今後の管理運営に当たっての意気込みなどお聞かせください。

脇岡 津市との連携の下、効率的な運営と安全の確保はもとより、久居アルスプラザが津市の文化芸術をけん引する、新しい時代にふさわしい拠点となるよう質の高い事業を展開するとともに、地域のにぎわいを創出し、さまざまな年代の市民の皆さんに気軽に集まっていたいただける新しい広場となることを目指します。それが「津市久居モデル」といわれるように、施設を市民の皆さんと共に楽しく育んでいきたいと思います。そのために社員一同全力を尽くします。

市長 アルスプラザという施設名は、人々が集い文化芸術が生まれる場所というイメージで付けられました。その名にふさわしい事業展開に期待し、津市としても指定管理者との十分な意思疎通を図ってまいります。

市と連携し、地域の賑わいを創出した



久居アルスプラザ館長
脇岡 宗一さん
WAKIOKA SOUICHI

1948年広島県生まれ。首席オーボエ奏者として東京交響楽団などで活躍。2005年高知大学教授に就任し、地元ホールとの協働で高知ジュニアオーケストラを設立するなど音楽文化の発展と青少年の育成に寄与。2018年にケイミックスパブリックビジネスに入社し、北九州ソレイユホールの館長として地域の文化芸術の振興に尽力。

市民が日常的に利用できる開かれた施設に



津市長
前葉 泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます!
MAYOR'S TV SHOW

◆ 津市ホームページ 津市 市長対談 検索
◆ ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

